

まちの駅全国フォーラム in ふくしま

来てみっせ、いいことあつから” ふくしま” へ

【日時】2013年11月18日(金)～19日(土)【会場】ふくしまテレサ

【主催】まちの駅全国協議会 【主管】まちの駅全国フォーラム in ふくしま
【共催】福島市、ふくしま NPO ネットワークセンター
【後援】観光庁、福島県



開催概要

まちの駅は「まちの案内所」「地域の茶飲み場」として、既存の施設・空間（公共施設、民間商店等）を自発的に開放する活動で、平成10年からスタートしました。“駅”のネットワークにより、地域全体の魅力を高めていこうという、官公民が一体となった取り組みとして、全国1600ヵ所以上で取り組まれています。

今回のフォーラムでは、まちの駅の基本である「おもてなし」と「つながり」を考えるとともに、具体的なテーマとして、現在取り組みを推進している「防災」「観光」「物産」交流について考える場を設けました。キャッチフレーズは「来てみっせ、いいことあつから” ふくしま” へ」

、地元はもちろん、全国の方々に福島の現状を知っていただく機会となりました。

● 1日目 11月18日(金)

全体会、グループ討議、交流会 ※敬称略

13:00-13:40 まちの駅連絡協議会 総会

14:00-14:15 開会・挨拶

14:15-15:15 基調講演

「つながることの大切さを考える」

講師：枝元なほみ（料理研究家・

一般社団法人チームむかご代表理事）

15:40-17:00 グループ討議

①まちの駅講座「まちの駅の可能性を考えよう」

②まちの駅と「防災」交流を考えよう

③まちの駅と「観光」交流を考えよう

④まちの駅と「もの」交流を考えよう

18:00-19:00 交流会 街なか広場

● 2日目 19日(土) エクスカーション

①福島市内の「まちの駅」巡り

②八重のふるさと・会津「まちの駅」巡り

③東日本大震災から約2年が経過した南相馬市巡り

全体会① 挨拶

会長挨拶 久住 時男（まちの駅連絡協議会 会長・新潟県見附市長）

こんにちは、みなさん。

ようこそ、この思いの深い福島にお集まりいただき、心から感謝申し上げます。この地でまちの駅全国フォーラムが開かれることは、大きな意味があります。各地で、その地域を心から愛し、その地域



が元気になるように活躍されているまちの駅の仲間が、全国から福島の地に一堂に会したことを、大変うれしく思います。

まちの駅は北海道から沖縄まで、全国で71の地域ネットワーク、1650駅になるということです。昨年、沖縄では50駅でネットワークがスタートしたということで、九州沖縄大会にも参加いたしました。1年間で25駅増えて75駅になったそうです。また、東京でも寅さんでおなじみの葛飾区柴又や、墨田区のスカイツリーのそばにもまちの駅が出来ています。15年かかりましたが、本当に日本各地を網羅する組織になってきました。しかも、行政に頼らない組織として。これは、総務省の方によると、たいへん珍しい組織だそうです。皆さんの活動のネットワークが評価されているということでしょう。昨年度の「東北観光博」の「旅の駅」の原点もまちの駅であります。私どもが作り上げてきたものが、いよいよ実を付け始めた。これから皆さんの力を借りて、この国をもっと良くしようという段階になってきたのだらうと思います。

そのことをもう一度再確認しつつ、今日と明日の2日間、皆さんのいろいろな知恵をまとめて、そして各地域での新たな元気づくりにつなげて頂ければありがたいと思っております。

今回開催に当たり、努力された地元の皆さん、実行委員会の方々に改めてお礼を申し上げます。また、福島県や福島市にもご協力いただき、感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

今日、明日と一所懸命に感動しましょう、楽しみましょう！

開会宣言

作田謙太郎（実行委員長）



「うつくしまふくしまへ」、全国のまちの駅の皆さま、ようこそお越しいただきました。

私は今日ここへお越しのまちの駅の仲間のまちをたくさん訪問しました。それは、震災後の福島を応援して

いただくためです。行き場の失った地元の農作物や産品を快く買っていただいて、たくさんの温かい気持ちをいただきました。この全国フォーラムは、頑張っているこの地域を見ていただきたい、ここで生きていく福島の人々の今の姿を見ていただきたい、そんな恩返しの気持ちでいっぱいです。

どうぞ、存分に福島を楽しんでいってください。そして、それぞれの地域に帰りまして、福島の元気な姿をお伝えいただけたら幸いです。

それでは、まちの駅全国フォーラム in ふくしまを開会いたします。

来賓挨拶

福島市長

(商工観光部部長 山内芳夫氏 代読)

皆様、全国からようこそ福島へおいでいただきました。心より歓迎を申し上げます。全国大会が福島市で開催され、多くの皆様にご参加いただき、厚くお礼申し上げます。また、震災以降全国の皆様から多大なるご支援や心温まる励ましをいただき、改めてお礼を申し上げます。

本市は「花もみもある福島市」を観光キャッチフレーズに、数々の花の名所を中心に豊かな自然を生かして、訪れる方々に喜んでいただけるようなまちづくりを進めています。また、「いで湯とくだもの里」として、全国でも有数の果物の産地として知られ、いで湯である飯坂、土湯、高湯の三つの温泉地を有しています。さらに、震災以降、希望ある復興を目指しながら、本年6月に実施した東北六魂祭やさまざまな復興イベントを開催するなど、風評被害



を払拭し、元気な福島を全国に向けて発信しているところです。

さて、地域情報を提供し、休憩所としての機能も備えたまちの駅は地域住民、あるいは来訪者の交流の場として極めて重要な役割を果たしています。福島市では2012度にまちの駅ネットワークが発足し、12の駅が連携して地域交流の拠点となり、活動を行っています。今回のフォーラムでは全国の皆様に福島の現状をご覧いただくとともに、まちの駅が果たすべき役割について、ともにお考えいただき、本日交わされた議論をもとに今後の取り組みの一層の推進につなげていただければと期待しています。

福島県知事

(観光交流局局长 五十嵐照憲氏 代読)

本日、全国フォーラムがここ福島県福島市において、全国各地の皆様のご参加により盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。大震災から2年7か月が経過いたしました。この間、県内外の皆様



の多大なるご支援をいただき、福島県は着実に元気を取り戻してまいりました。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

本県はひとりひとりが復興に向けて歩み始めよう。そして、ふくしまから新たな流れを創っていこうという未来への意思を込めたスローガン「ふくしまから はじめよう。」のもと、新生福島への道筋を着実に歩み始めております。

今大会はまちの駅の基本である「おもてなし」、「つながり」を考えるとともに、防災、観光などによる連携交流について考える場として開催されると伺っております。今大会開催をきっかけに、福島と全国各地のまちの駅関係者との交流が一層深まることを期待しています。

福島は歴史や伝統文化、温泉、豊かでおいしい食、金賞を受賞した数多くの日本酒、さらには人情味あふれる県民性など、多くの宝にあふれております。皆さんにはこの機会に、これらの魅力を見て、触れて、感じていただき、お帰りになられてからご家族やご友人にご紹介いただいて、福島との交流をさらに深めて頂ければ幸いです。



枝元なほみ(料理研究家・チームむかご代表)

震災の後、福島のことをずっと考えてきました。自分に何ができるだろうと。今日はまちの駅のフォーラムということで、「つながる」ことをお話します。

＜ブドウの一粒ずつ＞

福島では、ちょうど桃からブドウに収穫が移っていますね。すごく感動した言葉があります。電線を通して電気を遠く離れたところまで運ぶと、その間にたくさんのロスが出ます。だから、中心から遠くへ運ぶのではなく、ちょうどブドウの房のように、一粒ずつが元気になって、その中で自立、自足していけることが、国のイメージだという言葉でした。小さいブドウの一粒がそれぞれの地域なんだ、と考えるようになりました。

駅って、すごくいい言葉だと思います。駅とは帰って来るところでもあり、出かけるところでもあり、人と人がすれ違うところ、出会うところでもあると思うのです。駅があるっていいな。駅という言葉が、道とか、街とか、人が生きてすれ違う場所だとか、思うようになりました。そして、小さいブドウの一粒の中にある種が「駅」なのだ、まちの真ん中にあるブドウの種が「まちの駅」なのだと思います。

＜美味しいもので、ニコニコに＞

美味しいものってなんだろうと考えた時に、すごいご馳走ではなくて、人が生きていく上での支えになる食べ物が「おいしいもの」「ごちそう」だと考えるようになりました。皆さんにお聞きします。死ぬ前に食べたいものは何ですか？…スイカ、味噌おにぎり、ご飯とお新香、水、福島の桃。

豪華な料理は2日で飽きると思います。本当に美味しいと思えるのは、身体が欲している時、自分が必要だと思う時なんです。何が食べたいかを考えることが、すごく大事だと思います。3.11の後、私たちは改めて「何のために生きていくのか」という、生きることの重みを考え直したような気がします。元気になるために、経済が語られることが多いのですが、そうじゃない。経済を元気にすれば自分も元気になる訳ではないことを、ようやく私達は気付いたんだと思います。日本料理は世界中で大人気です。しかし、日本食の神髄は家庭料理にあると思っています。

お金があっても幸せではない。3.11で、私たちは水を心配し、食べ物を心配し、作物を心配した。そういう中で、本当に大事なものを、守るべきものを再認識したのではないのでしょうか。

＜食べることは生きること＞

世界で一番固い食べ物が日本にあります。さて、何でしょう？…鰹節、スルメ。正解は鰹節です。

何年も保つ食品を、生きた魚から作ったのが日本人の祖先です。削って湯に入れれば、すぐにだしが取れる。鰹節は無添加のインスタント食品なんですね。

高度成長期の前、日本は偉大な農業国でした。おおらかな国民性、まじめで、穏やかで、頑張り屋で、几帳面で、すごく褒められていました。それが、豊かになるという現象の中で、農業、食べ物を作ることがお金儲けにならないことと考えるようになりました。

TPPで心配なのは、日本の食べ物を作ってくれる人がいなくなるんじゃないかということ。輸入すればいいと思うかもしれないけど、いつまでも食べ物を輸入できると言っではいけないのが、今の世界情勢です。本当の豊かさとか、本当に大事なことは、ちゃんとした食べ物を作れて、食べられるということだと思います。

もう1つの心配は、遺伝子組み換え食品が入ってくること。品種の改良と違い、自然界では絶対に起こらないものを科学的に作るのが遺伝子組み換えなんです。

食べることは生きることと同じです。プライドを持って自足する地域が、地方があることが大事です。誰が作ったのかを教えてもらえる、安心して買える、そういう所に行きたいと思いました。

＜にこまるクッキー＞

震災後、怖くてどうすれば良いか分かりませんでした。被災地で食べ物を待っている人がいるので、クッキーを作ることにしました。手を使って、食べ物を作ることで落ち着きました。8週間、クッキーを作っているいろいろな被災地に送りました。

2011年5月、会津美里町で避難している子どもやお母さんと一緒にクッキーを作りました。一つずつ丸めて顔を付ける。自分で作ることで笑顔が生まれました。人の手が介在して、人と人がつながっていく。これからの価値観を変えたいと思いました。

工場製品の方が衛生的で安くて素晴らしいと思ってきましたが、このままでは食べるものが作れなくなってしまう。今の日本、大量に作って、大量に廃棄しています。それって、怖くないですか？

＜つながることで変わっていく＞

もう一度価値観を直接伝えることで、「まちの駅」みたいに人がつながっていき、一人ずつの粒が元気になっていくと思います。価値観を変えることで、新しい未来を作っていけると思っています。買い物をすることは投票することと同じです。自分が何をを選ぶかが重要です。それが自己表現であり、未来を作っていくことなのです。価値観を変えて、つながることを大事にすることで、今から変わっていけると思っています。

ありがとうございました。

枝元なほみ(料理研究家・チームむかご代表)

神奈川県横浜市生まれの料理研究家。1981年劇団龍井劇場の研究生となり、役者をしながら無国籍レストランで8年働く。劇団解散後、フリーの料理人になる。

<話題提供者>

橋本 正法 (まちの駅連絡協議会 事務局)
 福地 雅人 (まちの駅ネットワークふくしま 代表)
 佐藤 永子 (まちの駅ネットワークかぬま 事務局)

事例紹介①「まちの駅の歩み」

●20年前に行った道の駅の社会実験が成果を収め、幹線国道沿いの溜り場として国の制度になったが、国道を持たない町の首長が、道の駅的な施設を作りたいと言ったことから、継続的に検討し、結果として「まちの駅」の発案につながった。それを具現化する中で、当初の公共施設から、民間施設の参加、ネットワーク化など、現場における実践活動の積み重ねの中で今の考え方に至った。

●人が集まる中で、いろいろな知恵が湧いてくる。人に来てもらいたいのに「我が地域には観光資源がない」と言うが、A級はなくてもB級やC級の魅力はあるはず。たくさん集めれば魅力は向上する。まちの駅は、金を生み出すことがなくても、知恵と元気の交換によって、いろいろな活動を生み出す場になっている。

事例紹介②「福島市の取り組み」

●福島市のまちの駅は、福島情報ステーションが登録していたが、平成23年からネットワーク化を図っている。現在は13駅でネットワーク。被災地支援で会費免除になったことも、参加者を増やす結果となった

●「パセナカ Misse」は、震災前の平成23年2月にオープンした3階建てのテナントミックスビルで、平成24年8月にまちの駅として登録した。地域のイベントチラシを置いたり、壁にポスターを貼ったりして情報を発信している。身障者用トイレも他に少ないため、利用は多い。「こでらんに博」のスタンプラリー等の拠点にもなっている。

事例紹介③「鹿沼市の取り組み」

●平成17年の「まちなか創造“夢”プラン」の企画として取り組みが始まった。市が公募したところ、70駅が認定を受けたので、「まちの駅ネットワークかぬま」を発足した。その後も毎年募集を行い、これまでに115団体が認定を受けたが、事情により辞めるところもあり、現在は92駅。市町村単位では全国最多の設置を誇っている。

●マップの作成、スタンプラリーやまちの駅まつりの開催、県内のまちの駅との交流事業、駅長研修等を行っている。平成23年には、キーステーションとして「まちの駅“新・鹿沼宿”」がオープン。行政は後方支援であり、自主活動をみんなで楽しく行っている。

●課題は、数が多いことで他人任せの傾向や駅ごとの温度差が出ていること、全体への情報伝達が大変なこと等。また、会議での意見集約が難しい面があり、ブロックごとの代表者会議を行っている。

グループ談義「まちの駅の可能性を考えよう」

※先輩後輩ごちゃ混ぜのグループ談義。たくさんキーワードが出ました。

まちの駅巡り／まちの駅講座／異業種によるバリエーション／入退会自由／おもてなしと思いやり／町なか茶の間／「ばか」と言われて8年／ひとり非力・仲間づくり／事業部会・交流部会／ファンクラブ／自立化／きっかけづくり



<話題提供者>

久住 時男 (新潟県見附市長)
 丹治 裕之 (空の駅 ふくしまスカイパーク 駅長)
 高橋 秀一 (NPO 法人 市民協働ネットワーク長岡)
 ファシリテーター:内山 愛美 (まちの駅ふくサポ駅長)

事例紹介①「水害・中越地震でのネーブルみつけ」

●見附市は10年間に激甚災害が3回。最初の水害では早めの避難勧告等で死者ゼロだったが、大量の救援物資、ボランティアが来た。普通の市の施設、設備ではとても受けられないが、完成して10日目のネーブルみつけが役に立った。行政の窓口と、物資の受け入れとボランティアの受け入れが同じ場所でもできた。

●中越地震でも、協働の場として役に立った。まちの駅長は、災害時の情報提供、お世話という点でも「交代しない」「場所がある」ので共助の要になると思う。

事例紹介②「東日本大震災でのふくしまスカイパーク」

●スカイパークは福島市の施設。前は農道空港で、今は小型機訓練、イベント等も行う航空公園。3.11では自衛隊から発着場にしたいという要請があったが、連絡不足でできなかった。その後、福島空港が一杯で使えないため、メディアのヘリや物資の宮城県への中継基地として利用された。5月頃から南相馬への発着も増えた。

●福島に多くの物資がきたのを預かって、就業時間後に、福島市内の2箇所の避難所に運んだ。震災での課題は情報伝達。電話、ネットが停電で使えないので情報をうまく伝えられず、物資があることも共有できなかった。

事例紹介③「被災者支援事業 心のくつした便」

●くつした便は、最初、中越地震の時に行った。1ヶ月後の物資もライフラインも安定し始めた頃に、RECの人からできないかと聞かれ、「山古志からの来ている方々が希望を失いそう。元気になるメッセージ等がいい」と話した所から始まった。プレゼントはまちの駅ネットワークで集めた、おこづかい程度のもの。

●成果は受け入れの長岡のまちの駅ネットワークも一体になれたこと。送ることが目的でなく、つながることが大事。今後、一般の人にも広がるといい。

グループ討議「まちの駅と防災交流」

●防災は災害が起きる前に。福島市では3.11の時情報が不足した。情報源の選択肢を増やすべき。行政と住民の協働のまちづくりが必要。

●まちの駅を知る、知ってもらうことが大事。普段の活動以外にも、コンサートを開くなど、地域の人、まちの駅同士が交流することが大事。あそこにいけば何かがあるという存在になるべし。

●まちの駅も団体として防災訓練に参加して、行政より身近なところにあるからこそ、頼れる存在になるべし。

●駅長のもつ普段のネットワークをまちの駅に繋げよう！

※最後に全体会で内山さんから次の報告がされた。

●駅長が地域に関心をもち、防災に関心をもち、いざという時に頼れる存在になろう！

●まちの駅を地域の安心スポットにしよう！



グループ討議③ まちの駅と「観光」交流を考えよう

<話題提供・パネリスト>

藤澤義人（国土交通省 東北運輸局 観光地域振興課 課長）
猪狩知治（福島市観光コンベンション協会 事務局長）
稲生孝之（会津地域連携センター 理事長）
辻 貴弘（まちの駅獅子の里つぎ）
ファシリテーター：磯部健一（まちの駅福島ふるふるステーション）

ミニミニポスター「ふくしま観光の現状と交流連携による新しい日本の観光」

「まちの駅ネットワークを活かした観光まちづくりのアイデアやふくしま・東北観光の支え方をみんなで考えましょう。」

- 「東北観光博とこれからの観光施策」東北観光博の旅の駅は、まちの駅をモデルにつくられました。
- 「ふくしまの観光の現状」ふくしまではまち歩きを推進しています。
- 「まちの駅ネットワークによる「おもてなし観光地域づくり・会津モデル」について」広い会津でまちの駅ネットワークにより一体感のある観光振興を進めています。
- 「石川県白山市鶴来でのまちの駅ネットワークを活かした活動」スタンプラリーなどまち歩きを成功させるには秘訣があります。ぜひ鶴来に見に来てください！

グループディスカッション

各グループで「テーマⅠ. まちの駅連携によるふくしま・東北観光の支え方」「テーマⅡ. まちの駅ネットワークを活かした夢のある観光地域づくりのアイデア」について、短い時間で考えていただきました。

【グループ①】福島市では休日に観光客が集中し、平日は店を閉めているところが多い。福島3地域の連携が必要。尾鷲まちの駅のような地域密着型の観光を各地で。

【グループ②】観光客が利用できないスタンプラリーが多い。福島市のマップにはまちの駅は載っていない。まずはまちの駅の認知度を高めること。

【グループ③】風評被害払しょくのためには正しい情報を伝えることが重要。まちの駅の顔の見えるネットワークを活かすことで、正しい情報の発信ができる。

【グループ④】まちの駅ネットワークを活かすためには、個々のまちの駅を活かすことと、行政など様々な主体との連携による仕掛けが必要。

【グループ⑤】ポイントは商店をつなぐこと。自分たちがやりたいことを有志のまちの駅が主体となりやっていく。まちを生き活きとさせるのがまちの駅。

【グループ⑥】スタンプラリーやまちナビカードなど、やりつくした感がある。まちの駅ネットワークを活かすためには、「人」「ネットワーク」「ブランド力」を強化！

【グループ⑦】まちの駅観光のキーワードは「地域の結びつき」「点を線にする」「安心」「あたたかさ」「情報発信」など。ツールとして有効なのは「のぼり旗」。

【グループ⑧】まちの駅ネットワーク同士でお互いの地域で案内人さんのスキルアップ研修を！お互いの地域のいいところを見つける。

総括コメント 藤田真一さん（ばとうまちの駅）

- 自分で地域の魅力を発掘して自分で発信することが大切。
- まちの駅の旗が全国に広がることでまちの駅の認知度もあがる。



グループ討議④ まちの駅と「もの」交流を考えよう

<話題提供者>

河井達志（鹿児島県まちの駅連絡協議会事務局長）
渡辺匡（福島市商店街連合会 相談役）
赤崎隆三郎（沖縄まちの駅連絡協議会事務局長）
小沼一夫（太陽漆器）
ファシリテーター：齋藤巧（まちなか夢考房店長）

まちの駅の物産販売とは

- まちの駅同士のつながりを利用して「もの」の交流を具体化したい。
- キーワードは3つ
 - ①安全安心であること、
 - ②人と人のつながりによって生み出される信用、
 - ③正確な情報提供。
- 少量多品種の販売じゃないとできない。
- 利益、在庫をどうするか、品特性をどうするか、物流の研究も必要。

まちの駅に必要な情報とは

- まちの駅がどういう情報を提供するかは様々である。タイムリーな情報をどうやって提供するかが重要。
 - ・駅長会議を頻繁に行い、情報交換を頻繁におこなう。
- BtoBの繋がりを作るための情報整備が必要。
 - ・各まちの駅の業種（販売、卸、行政等）が分かる名簿を整備する。
 - ・全国大会でも名札に工夫して、相手の業種が分かるようにする。
- 意識の高い駅同士が連絡し合えば、直ぐに実現できるはず。

まちの駅の商品とは

- 必要とされているのはコミュニティ、コミュニケーションの場であり、モノ売りを優先するとダメ。物語を作ろう。
- 価格競争やモノ売りでは大手に勝てない。大手に出来ない事をやるべき。ヒトとヒトは繋がるので、モノとモノを繋げよう。楽しく「まちの駅」をやろう。

まちの駅による被災地支援

- 遠隔地ほど情報が無い。継続して情報発信をすることが大事
- 地域の名品を掘り下げてカタログ化する。送料なども分かりやすくする。
- 少量で他地域に送れる仕組み作り（アソートセットなど）
- 支援ではなく、ビジネスを成立させるものを構築すること。

まとめ

- まちの駅とは21世紀のアゴラ
- まちの駅は嘘をつかない
- 来年の全国大会には、ウチにはこんなものがあるよというものを持ってくる
- やれることはすぐやる



交流会



福島駅東口の「街なか広場」にて、18時から星空の下で交流会が行われました。



威勢よく鏡開きで交流会がスター



地元ふくしまや鹿児島等から物産販売の出店をしていただきました。



交流会の参加者同士が集まって話の花が咲きました。



メイン料理は地元食材を使ったのバーベキュー！



山木屋太鼓のみさんによる演奏で会場全体が盛りあがりました！



地元で活躍のお笑い芸人ボンガーズによる司会で、各地まちの駅メンバーからひと言。



大会副実行委員長より締めのご挨拶をいただき、無事に閉幕。

みなさま、お集まりいただき、ありがとうございました！

【福島市内の「まちの駅」巡り】

平成 23 年度に立ち上がった福島市内のまちの駅ネットワークを巡りました。

●コース

福島情報ステーション → 古関裕而記念館 → 御倉邸・おぐら茶屋 → 四季の里／アサヒビール園 → 荒川資料室 → 手作りジェラート店「honey bee」 → 福島駅西口

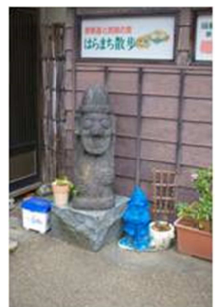


【東日本大震災から約 2 年半が経過した南相馬市巡り】

南相馬のまちの駅を中心に、津波や原発事故の被災地を視察し、復興に向けて様々な取り組みを始めている現状を視察しました。

●コース

コラッセふくしま → 南相馬（南相馬市博物館） → 小高の街なか → 小高～はらまち沿岸 → 南相馬市ソーラーアグリパーク → 道の駅南相馬 → 福島駅



【八重のふるさと・会津「まちの駅」巡り】

NHK 大河ドラマ「八重の桜」でも話題の会津のまちの駅を巡りました。

●コース

コラッセふくしま → 会津藩校日新館 → まちの駅白虎隊（會津とらぞう）／飯盛山 → あいづ広域観光情報センター「いらんしょ。」 → 割烹の駅（萬花楼） → 大河ドラマ館 → 酒造の駅（会津酒造歴史館） → まちの駅鶴ヶ城（鶴ヶ城会館） → 会津若松駅／郡山駅



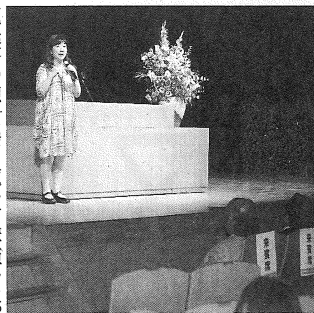
まちの駅活動向上

福島で全国フォーラム

全国各地のまちの駅の運営関係者が集う「まちの駅全国フォーラムinふくしま」は18日、福島市で開かれ、まちの駅活動の向上に向け情報交換した。まち

「まちの駅」の役割模索 きのうまで全国フォーラム

福島 運転者や観光客の憩いの場「まちの駅」の関係者が集う「まちの駅全国フォーラムinふくしま」は十八、十九の両日、福島市で開かれ、東日本大震災からの復興支援に向けて、まちの駅が果たす役割について意見を交わしている。



食のありがたみについて話す枝元さん

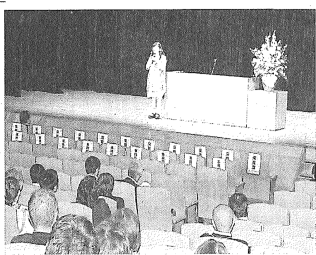
「防災」「観光」「物産」をテーマにグループ討議を行い、駅のネットワークの生かし方をめぐり意見交換した。

市内のまちなか広場に会場を移し、円盤餃子など特産品を味わいながら懇談した。

十九日は三班に分かれ、同市や会津若松市の観光地、津波被害に遭った南相馬市の沿岸部などを視察する。

↑ 2013年10月19日(土) 福島民報さま

← 2013年10月19日(土) 福島民友さま



まちの駅の今後の在り方を考えたフォーラム

ら関係者約200人が参加した。まちの駅が今後、観光や防災面で果たす役割などを意見交換しながら探った。また、料理研究家の枝元なほみさんが「つながることの大切さを考える」をテーマに基調講演した。

【ご協賛いただいたみなさま】

- まちの駅ネットワークかぬま さま(2口)
- NPO 法人会津地域連携センター(会津まちの駅) さま(2口)
- 空の駅ふくしまスカイパーク さま
- 曹洞宗 福聚禅院 さま
- (特非) まちの駅 ネットワーク 本庄 さま
- ふれあいいきいきオリオンビール(株) 名護工場 さま
- 手作りますの寿司 老舗(有) 味の笹義 さま
- アサヒビール株式会社 福島支社 さま

まちの駅ネットワークかぬま

まちの駅といえば「設置数日本一」の『かぬま』。「SATSUKI」「BONSAI」といえば『かぬま』。「彫刻屋台」「ぶっつけ秋祭り」といえば『かぬま』。笑顔あふれるやさしいまち『かぬま』では92の駅がおもてなしの心を持って活動しています。

まちの駅ネットワークかぬまのキャラクター『ペリーまっちゃん』です!

会津まちの駅 非公認キャラクター「こぼ」

会津地域統一ブランド「ハンサムウーマン」もよろしくね!!

HANDSOME WOMAN DNA of AIZU

認定 NPO 法人
ふくしま NPO
ネットワークセンター

私たちは、NPO・市民活動団体の支援を目的に活動をすすめています。

〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F
電話 024-528-1211 / ファックス 024-528-1218
メール center@f-npo.jp
ホームページ http://www.f-npo.jp

まちの駅ふくサポ・まちの駅ふくしま情報ステーション